

市政記者クラブ 様

令和3年8月12日(木)
健康福祉局新型コロナウイルス
感染症対策部感染症対策室
担当(結核以外)：内田、内山
(結核)：加藤、増田
電話：972-2631(結核以外)
電話：972-2633(結核)

名古屋市感染症発生動向調査(令和3年7月分患者発生状況)について

本市では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報提供を行っています。

1 7月の感染症発生状況(報告のあった疾病のみを記載)

(診断日で集計)

疾 病 名	令和3年7月	令和2年7月
◆一類感染症 (発生なし)	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	32件	34件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	7件	9件
◆四類感染症 ・レジオネラ症	8件	3件
◆五類感染症(全数把握疾病) ・アメーバ赤痢 ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・後天性免疫不全症候群 ・侵襲性インフルエンザ菌感染症 ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。) ・梅毒 ・百日咳	1件 8件 4件 5件 2件 1件 1件 16件 5件	1件 2件 1件 6件 0件 4件 2件 10件 0件
◆五類感染症(定点把握疾病：第27週～第30週(7月5日～8月1日分)) ・報告数の多い疾病は、①RSウイルス感染症(628件：前月期比0.54倍)②感染性胃腸炎(339件：前月期比0.42倍)③A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(112件：前月期比0.78倍)の順となっています。		

2 トピックス

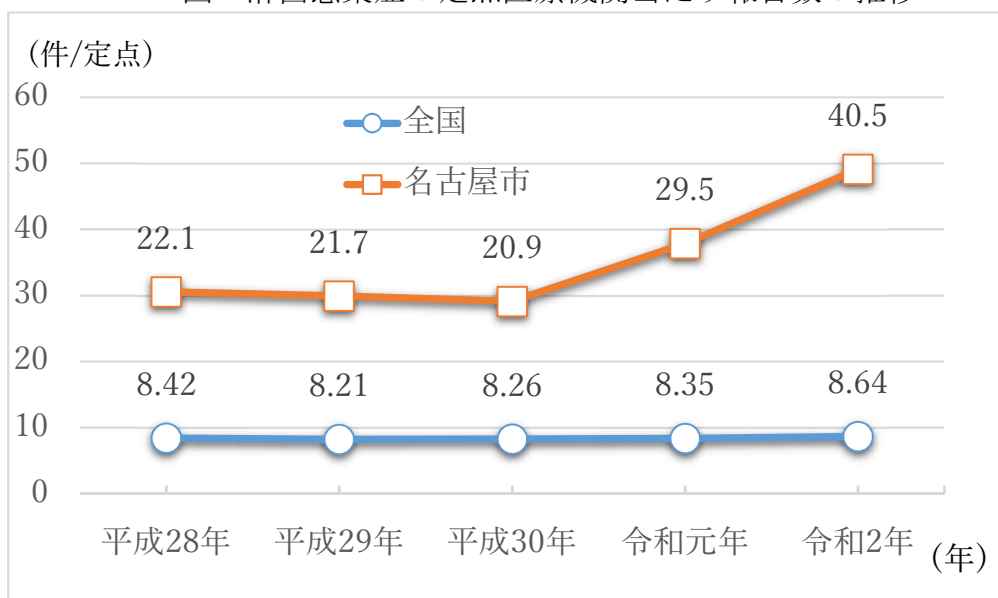
淋菌感染症

概要

淋菌感染症は、淋菌を病原体とする性感染症です。淋菌は弱い菌で、患者の粘膜から離れると数時間で感染性を失い、日光、乾燥や温度の変化、消毒剤で簡単に死滅します。性交や性交類似行為以外で感染することはまれです。

感染症発生動向調査において淋菌感染症は、五類感染症（定点把握疾病）に指定されており、名古屋市では市内 15 の性感染症定点医療機関が、月ごとの患者の数を保健センターに報告することとなっております。名古屋市では令和元年から患者の報告数が増加しており、令和 2 年は平成 30 年の 2 倍の報告数となっております。

図 淋菌感染症の定点医療機関当たり報告数の推移



(※) 令和 2 年は速報値

症状

男性は主として淋菌性尿道炎を呈し、女性は子宮頸管炎を呈します。男性の尿道に淋菌が感染すると、2～9 日の潜伏期を経て通常膿性の分泌物が出現し、排尿時に疼くような痛みを生じます。しかし最近では、男性の場合でも症状が典型的でなく、粘液性の分泌物であったり、場合によっては無症状に経過することもあります。

女性では男性より症状が軽くて自覚されないまま経過することが多く、また、身体の上部に炎症が波及していくことがあります。その他、咽頭や直腸の感染では症状が自覚されないことが多く、これらの部位も感染源となります。

また、淋菌感染症は何度も再感染することがあります。

治療・予防

抗菌薬で治療を行います。

予防法としては、性的接触時にコンドームを必ず使用することです。男性の淋菌性尿道炎患者の約半数は、いわゆる性風俗店での口腔性交によって感染しています。問題となるのは、口腔に淋菌を持つ保菌者のほとんどが無症状で、感染を受ける側も口腔での性交によって淋菌に感染したことに気づいていないことです。

3 病原体分離情報（令和3年7月検査分）


1. 令和3年6月17日発症、令和3年6月23日に市内医療機関を受診し、感染性胃腸炎と診断された昭和区在住、0歳2ヶ月、男児の検体（便）から、急性胃腸炎や呼吸器感染症の原因ウイルスの一つとされているヒトパレコウイルス1型を遺伝子検査法により検出・同定、細胞培養法により分離・同定しました。
2. 令和3年6月24日発症、同日に市内医療機関を受診し、急性脳症と診断された千種区在住、0歳9ヶ月、女児の検体（咽頭拭い液）から、上気道炎・下気道炎の原因となりうるヒトライノウイルスA群（HRV-A）、アデノウイルス2型、ヒトパラインフルエンザウイルス3型を遺伝子検査法により検出・同定しました。その他同時に提出された検体（髄液、尿）からは、検出されておられません。
3. 令和3年5月21日発症、同日に市内医療機関を受診し、急性脳炎と診断された南区在住、0歳11ヶ月、男児の検体（便）から、小児～青年の時期に感染し、無症状か風邪のような症状を示すことが知られているEBV（Epstein - Barr virus）を遺伝子検査法により検出・同定しました。その他同時に再提出された検体（髄液、尿、咽頭ぬぐい液、血液）からは検出されておられません。
4. 令和3年7月3日発症、同日に市内医療機関を受診し、急性脳炎と診断された名東区在住、3歳、女児の検体（咽頭拭い液）から、小児～青年の時期に感染し、無症状か風邪のような症状を示すことが知られているEBV（Epstein - Barr virus）、さらに主に小児が冬季にかかる風邪の原因となるヒトコロナウイルスOC43を、同時に提出された検体（尿）からは、不顕性あるいは軽症に経過することが知られているサイトメガロウイルス（CMV）を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和3年 第27週～第30週（7月5日～8月1日）

	小児科・インフルエンザ定点報告 (70医療機関)											眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)						合 計
	RSウイルス感染症	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因とした場合を除く)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)	インフルエンザによる入院患者	
千種	25	-	-	2	21	-	3	-	7	-	-	1	/	/	/	/	/	/	/	59
東	62	-	-	-	7	-	1	1	1	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	73
北	77	-	1	-	26	2	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	111
西	126	-	6	67	14	1	-	-	9	6	3	-	1	/	/	/	/	/	/	233
中村	49	-	-	2	34	1	-	-	2	2	-	-	1	/	/	/	/	/	/	91
中	76	-	-	-	45	3	4	-	2	1	-	/	/	/	/	/	/	/	/	131
昭和	3	-	-	1	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
瑞穂	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	/	/	/	/	/	/	/	3
熱田	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	/	/	/	/	/	/	1
中川	55	-	16	2	28	-	1	-	-	36	5	/	/	/	/	/	/	/	/	143
港	4	-	-	6	49	-	-	-	-	-	1	/	/	/	/	/	/	/	/	60
南	52	-	2	5	14	1	1	1	1	2	-	-	-	/	/	/	/	/	/	79
守山	35	-	-	10	12	-	3	-	4	2	1	/	/	/	/	/	/	/	/	67
緑	8	-	1	13	26	1	-	-	11	4	1	-	-	/	/	/	/	/	/	65
名東	43	-	4	2	21	-	-	-	5	1	2	-	-	/	/	/	/	/	/	78
天白	10	-	-	2	28	1	-	-	1	-	1	-	1	/	/	/	/	/	/	44
合計	628	0	30	112	339	10	13	2	45	55	18	0	4	0	0	0	0	0	0	1,256
前月	1,172	0	65	143	805	16	15	7	59	30	9	1	3	0	0	0	0	0	0	2,325
前月比	0.54	-	0.46	0.78	0.42	0.63	0.87	0.29	0.76	1.83	2.00	0.00	1.33	-	-	-	-	-	-	0.54
昨年同月	1	0	24	140	527	21	20	5	88	42	5	0	1	0	0	0	0	0	0	874

注：  は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報） 令和3年7月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)			合 計
	性感 染器 症 クラ ミジ ア	ウ性 器 ヘル ス感 染症	尖 圭 コン ジ ロー マ	淋 菌 感 染 症	感 染 色 ブ ド ウ 球 菌 性	メ チ シ リ ン 耐 性	肺 炎 球 菌 感 染 耐 性	
千種	7	0	0	0				7
東								
北	32	2	1	19	0	0	0	54
西	2	1	0	0				3
中村	9	0	0	9				18
中	42	15	7	24				88
昭和	6	5	0	6	0	0	0	17
瑞穂	0	2	0	0				2
熱田								
中川	15	0	5	20	0	0	0	40
港	4	9	0	0				13
南	3	0	0	1				4
守山								
緑	14	3	2	7				26
名東	1	0	0	2				3
天白	5	3	0	2				10
合計	140	40	15	90	0	0	0	285
前月	131	31	15	78	1	0	0	256
前月比	1.07	1.29	1.00	1.15	0.00	-	-	1.11
昨年同月	122	29	19	51	1	0	0	222

注 は、報告する医療機関がないことを表す。

7月分患者報告数	
週報分	1,256
月報分	285
合 計	1,541

令和3年 7 月の一～三類感染症発生状況

	疾 病 名	令和3年7月	令和3年計	令和2年計	平成31年(令和元年)計
		患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1) 鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
三類感染症	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	4
	腸管出血性大腸菌感染症	7	15 (1)	42 (5)	45 (10)
	腸チフス	-	-	-	1
	パラチフス	-	-	-	1
	合 計	7 (0)	15 (1)	42 (5)	51 (10)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和3年7月	令和3年計	令和2年計	平成31年(令和元年)計
	患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
O157	5	11 (1)	19 (1)	28 (5)
O26	2	3	10 (2)	5 (1)
O103	-	-	4 (1)	2 (1)
O111	-	1	3	-
O121	-	-	1	-
O145	-	-	2	6 (2)
O165	-	-	-	1
O166	-	-	-	1
その他	-	-	3 (1)	-
型 不 明	-	-	-	2 (1)
合 計	7 (0)	15 (1)	42 (5)	45 (10)

結核 新登録患者発生状況（月報）

令和3年7月

保健センター名	令和3年7月（※）			令和3年計（※）			令和2年計（※）			平成31年・令和元年計		
	活動性結核		（別掲） 無症状病原体 保有者	活動性結核		（別掲） 無症状病原体 保有者	活動性結核		（別掲） 無症状病原体 保有者	活動性結核		（別掲） 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	0	0	2	7	3	10	28	14	3	22	9	6
東	0	0	0	10	3	3	6	1	5	19	9	5
北	2	0	3	10	3	5	27	10	6	29	9	11
西	0	0	0	12	5	5	26	9	6	21	5	8
中村	0	0	0	10	4	5	36	11	8	28	15	23
中	0	0	0	12	2	10	24	11	9	26	9	10
昭和	1	0	0	11	6	3	18	7	7	11	5	5
瑞穂	2	0	0	6	3	4	24	6	4	19	9	13
熱田	1	0	0	7	0	0	17	6	2	7	5	7
中川	2	0	2	27	6	12	39	11	6	49	15	16
港	1	0	1	10	2	4	32	12	8	30	7	13
南	5	1	0	16	3	6	23	9	5	42	18	7
守山	1	1	0	13	5	5	21	6	5	30	8	10
緑	1	0	0	15	8	4	23	7	13	34	12	21
名東	1	0	1	10	4	5	21	10	5	29	11	10
天白	4	1	2	13	6	5	19	8	4	26	13	11
全市	21	3	11	189	63	86	384	138	96	422	159	176

※ 令和2年・令和3年の数値は暫定値です。（平成31年（令和元年）の数値は確定値です。）

四類感染症（44疾病）

疾 病 名	令和3年7月		令和3年計	令和2年計	平成31年(令和元年)計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	-		1	3	3
A型肝炎	-		-	4	5
チクングニア熱	-		-	-	3
つつが虫病	-		-	-	1
デング熱	-		-	3	9
マラリア	-		-	-	1
レジオネラ症	8		19	27	40
合 計	8		20	37	62

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（24疾病）

疾 病 名	令和3年7月		令和3年計	令和2年計	平成31年(令和元年)計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	1		5	15	21
ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	-		B型: 1 - -	B型: 1 - その他: 2	B型: 3 - その他: 1
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	8		32	49	57
急性脳炎*	-		1	8	20
クロイツフェルト・ヤコブ病	-		2	3	2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4		25	25	30
後天性免疫不全症候群	5	無症候性キャリア: 3 AIDS: 2	無症候性キャリア: 29 AIDS: 18 -	無症候性キャリア: 49 AIDS: 10	無症候性キャリア: 55 AIDS: 17 その他: 1
ジアルジア症	-		-	1	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	2		7	11	14
侵襲性髄膜炎菌感染症	-		-	1	5
侵襲性肺炎球菌感染症	1		23	47	94
水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)	1		1	10	7
梅毒	16	早期顕症梅毒: 14 - - 無症候梅毒: 2	早期顕症梅毒: 82 晩期顕症梅毒: 1 先天梅毒: 2 無症候梅毒: 32	早期顕症梅毒: 112 晩期顕症梅毒: 3 無症候梅毒: 52	早期顕症梅毒: 132 晩期顕症梅毒: 6 無症候梅毒: 74
播種性クリプトコックス症	-		1	3	4
破傷風	-		1	-	2
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-		-	1	-
百日咳	5		27	51	270
風しん	-		-	検査診断例: 7	検査診断例: 27
麻しん	-		-	-	検査診断例: 7 修飾麻しん: 3
合 計	43		291	461	856

※ ウェストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握(侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く)を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 24疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

参考資料

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 (5 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起し得る感染症
四類感染症 (44 疾病)	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 (全数：24 疾病) (定点：24 疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 (4 疾病)	<p>【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの</p> <p>【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの</p>
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染性と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

(令和3年7月31日時点)